

こんにちは 松坂みち子 です



日本共産党市議会議員 松坂みち子の活動報告

< No.48 2011. 9. 25 > 連絡先 402-1622

教科書採択

来年4月から、市内の中学校で使われる教科書が、歴史は東京書籍、公民は日本文教出版の教科書に決まりました。教科書採択については、自由社や育鵬社のような戦争を美化する教科書は採択しないよう、意見を出しましょうと呼びかけさせていただきましたが、結果にほっとしているところです。

自由社の教科書は「新しい歴史教科書をつくる会」（藤岡信勝会長）のメンバーが中心になって作成。育鵬社の教科書は、「つくる会」を脱退した八木秀次氏を理事長とする「日本教育再生機構」と「教科書改善の会」が中心になって作成しました。いずれも、歴史教科書は日本の侵略戦争を「自存自衛」のための戦争、「アジア解放」の戦争と美化・合理化しています。また公民教科書は憲法を敵視、改悪を強調しています。

自民党は地方議員に、育鵬社・自由社の教科書を採択させるための議会質問をさせ、決議をあげさせ、教育委員に働きかけさせるなど、党を挙げて侵略戦争美化教科書の採択を図りました。

和歌山市では、教科書が決まったあとの9月議会の一般質問で教科書採択問題にふれた一般質問がありました。東京書籍や日文の教科書では、（戦前のような）「日本人としての誇り」を持った子どもは育たない、4年後の採択ではどうするのか、といった内容でした。市は、教科書全体を見て、子どもたちの学習にふさわしいものを選んだという内容の答弁をしました。

子どもたちが、事実を捻じ曲げ、特定の概念を押し付ける教科書で教わることのないように、市の決定が今後も揺らぐことのないように、市民の良識で見守り、ご一緒に運動をすすめていきましょう。



お祭りが始まってからは大降りにはならず、たくさんの方が集まって、にぎわいました。来年は晴れま



き応えがありました。空と相談しながらの準備でした。オーブニングは今年初めてという、紀ノ川中学校の吹奏楽部の演奏。上手でバラエティに富み、聞き応えがありました。備のお手伝いの方は途中からカッパをきたものの、ずぶぬれでした。私は田代紀美野町議の音響のお手伝いで昼前に行きましたが、機械は雨に弱く、ビニールをかぶせたり、やんでる間に作業したりと、空と相談しながらの準備でした。オーブニングは今年初めてという、紀ノ川中学校の吹奏楽部の演奏。上手でバラエティに富み、聞き

みち子のひとりごと お疲れさま

17日、有本の生協病院の30周年のおまつりがありました。前日からお天気が心配だったのですが、決定される10時には晴れ間が出るほどのお天気。ところが、昼前から雨がふったりやんだり。準備のお手伝いの方は途中からカッパをきたものの、ずぶぬれでした。私は田代紀美野町議の音響のお手伝いで昼前に行きましたが、機械は雨に弱く、ビニールをかぶせたり、やんでる間に作業したりと、空と相談しながらの準備でした。オーブニングは今年初めてという、紀ノ川中学校の吹奏楽部の演奏。上手でバラエティに富み、聞き

「さようなら原発集会」に 6万人

作家の大江健三郎さんら著名9氏が呼びかけた「さようなら原発集会」が19日、東京・明治公園で開催されました。公園内だけでなく、周辺にも人があふれ、身動きでないほど。「6万人が集まりました」と主催者が報告すると、どよめきが起きました。同公園にこれだけの人が集まるのは数10年ぶりです。（9月20日付 赤旗日刊紙より）

新聞各社の報道は？

この集会について、しんぶん赤旗は、一面の3分の1をつかって大きな写真入りで伝えました。呼びかけ人の発言や、参加者の声など、臨場感ある報道です。また毎日新聞は、ヘリコプターからの写真（人が点のように集まって立錐の余地がない様子）をのせ、6万人参加したと伝えました。一方、朝日新聞は7面に2段29行、読売新聞は37面に17行、産経新聞では21面に11行というように、探さなくては見つけられないような報道しかしていません。

6万人もの人たちが集まった集会をどう報道するか、あまり扱いのちがいに驚きです。新聞社の考えもあるでしょうが、気に入らない集会だからアリバイ的にしか伝えない、というのでは公的報道機関として無責任ではないでしょうか。

高齢者を災害から守るために

敬老の日に寄せて
日本共産党の見解をご紹介します

多くの高齢者が被災

災害に際し、まず問題になるのは避難や救援の態勢です。体力が衰え、不自由さも抱えた高齢者が短い時間で避難するのは容易ではありません。日ごろから高齢者の連絡網などを整え、態勢を準備する必要があります。

興の中でも高齢者の介護や医療の態勢を急いで整える必要があります。

大震災の被災地では、症状が悪化し、介護認定を申し込むケースが増えているといわれます。多くの場合、介護や医療の従事者自身が被災者です。自治体や民間の努力任せにせず、国の支援が決定的です。

防災対策の総点検とともに、災害に強い町づくりをめざし、高齢者が避難しやすい道路や公共施設のバリアフリー化を進めること、高齢者を「ひとりぼっち」にしない地域社会を作っていくなどがとりわけ重要です。

冷たい政治の転換を

今年70歳を迎えるのはアジア・太平洋戦争が始まった年に生まれた人たちです。80歳を迎えるのは「満州事変」の年に生まれた人たちです。戦前・戦後のご苦労に思いをはせるとともに、そうした人たちが安心して老後を送れるように対策を尽くすのは国と社会の重大な責任です。

お年寄りを差別する「後期高齢者医療制度」廃止の公約は投げ捨て、年金制度や医療保険を改悪し、消費税増税を押し付けるなど、高齢者に冷たい政治は、根本から変えさせるなど、高齢者に冷たい政治は、根本から変えさせる必要があります。